

通信

7

「人間力」が問われている



株式会社三菱東京UFJ銀行
取締役会長

畔柳 信雄氏

(くろやなぎ・のぶお)

著作権の関係上、表示できません。

「人間力」が問われている時代である。IT革命、通信革命が目覚ましい発展をとげ、そのお蔭で大変に便利な時代となった。個人の生活スタイル、企業における仕事のスタイルも大きく変わった。人々は携帯電話と起居を共にし、会社では出勤するやいなや、パソコンに向かい合っている。その中で、「人間力」が問われているのである。

私なりに、二つの観点で、この「人間力」について考えてみたい。第一点、光と影ではないが、利便さを受け取る人が圧倒的に多くなり、利便さや本当の豊かさを創り出す力が衰えてきているのではないか。情報量が余りに多いので、全て右から左に聞き流してしま

う。何でも検索して、それで納得してしまう。物事の必要性の原点や意味を考えることなく、日々の生活を送ってしまう。人類は、逆れば自給自足の時代から、産業革命、IT革命と様々な工夫(イノベーション)を実現してきた。その工夫する力こそ、「人間力」、私なりにこれを分解して理解すれば「考える力」×「実行力」と思う。現代に生きる人々は、人類の諸先輩の「人間力」にただ乗っかっているのではない。環境問題、食料問題、多くの課題が人類に新たに生じている。

「人間力」が問われているのである。

第二点、その様に人間力を考えるなら、次に思い当たる観点が、人類の諸先輩に続いて現代に生きる我々が、そもそも社会人として、どういう価値観を持って、どういう志を持って生きようとしているか、が問われていると思う。端的にいえば、これまた社会人とは、企業に勤め、ただ利益を追求していれば豊かな社会になるのか、本当の「社会人」とは、ということが問われているのではないだろうか。

私の尊敬する新渡戸稲造は、「ご存知の通り100年前に、われ太平洋にける橋とならん」と志を建て、グローバルな世界と日本の道徳観(武士道精神など)の協調に一生を捧げ、且つ教育界にもかけがえない功績を残された人だが、社会人に巣立つ学生達に対して「今までの学生生活は、to knowであつたでしょう。社会に出て行くこれからは、to doが大事なものは当然ですが、最も大事な事は、どの様な人間として生きるか、to be、最も大事なことです。」と、この言葉を送っている。重い言葉である。どついつ志を持ち、どついつ「存在」の社会人として、考え、日々、実行していくか、「人間力」の問われている時代である。